

第3ステージ『学校マネジメント4つの観点』S評価のポイント

日田教育事務所

(各観点の項目すべてができていることがS評価の条件)

観点Ⅰ(S評価基準) 育成を目指す資質・能力を踏まえた家庭・地域と共有できる明確な学校の教育目標、教育目標の達成に向けた課題を捉えた重点目標、短期の検証・改善が可能で、重点目標の達成に近付く妥当な根拠や理由を説明できる重点的取組及び取組指標となっている。

【目指す学校の姿(S評価)の例】

重点項目	評価の視点
◆「育成を目指す資質・能力」の明確化	①学校として「育成を目指す資質・能力」が1~2つに 焦点化 しており、重点目標も含めて 設定理由が明確 であること。
◆「誰が」「何を」「どのくらいの頻度で」を明確にした取組指標の設定	② 妥当な根拠や理由を説明できる各種指標(達成指標、取組指標) が設定されていること。
◆「学校評価の4点セット」の策定プロセスの見直し	③「学校評価の4点セット」を策定する際、主任等を中心に 全教職員に関与 させていること、また家庭・地域の取組については、 CS等を活用して設定 していること。

観点Ⅱ(S評価基準) 客観的なデータを用いて取組指標に基づく取組状況の確認や達成指標に基づく達成状況の確認、児童生徒の実態把握を効率的に行った上で、重点的取組の有効性や取組指標の妥当性の検証と改善方策の検討が、「検証・改善プロセス」に沿って効果的に行われている。

【目指す学校の姿(S評価)の例】

◆検証・改善結果の教育課程への反映	④昨年度の取組の改善点や、学校として「育成を目指す資質・能力」について、今年度の 教育課程に「何を」、「どのように」等具体的に反映 させていること。 (カリキュラム・マネジメントの推進)
◆検証・改善を行う際の視点の事前整理	⑤各種指標が 要因分析に基づき検証 されていること。
◆検証・改善フローの徹底	⑥要因分析に基づいて各種指標(達成指標、取組指標)の検証・改善が 適切なスパンで 行われていること。(長期・中期・短期)

観点Ⅲ(S評価基準)

- 重点目標の達成に向けた「検証・改善体制」の中で、以下の役割と責任が主任等によって果たされている。※役割と責任はAに同じ。
- 会議・分掌・行事等の見直しにより学校運営が効率化されるとともに、少数職種・専門スタッフや福祉・警察等の関係機関との連携体制が構築され、日常的な情報共有が十分に行われている。

【目指す学校の姿(S評価)の例】

◆主任等による縦と横の連携と取組の進捗管理等での指導・助言	⑦学校として育成を目指す資質・能力に向けた 取組が学級間で統一、学年間で連携 してすすめられていること。 ⑧ 主任に与えられた3つの役割と責任が遂行 されていること。
◆会議・分掌・行事等の見直し・精選など学校規模や人員等に 応じた学校運営	
◆専門スタッフや関係機関等との 日常的な情報共有	⑨学校の 課題解決に向けた取組が、組織的に 進められていること。 (いじめ・不登校、健康課題等)

観点Ⅳ(S評価基準) 目標協働達成に向けたチームが組織され、児童生徒の現状・課題、学校の教育目標や「学校評価の4点セット」等の取組内容が熟議され、取組や行事等の質の向上と精選・見直し、家庭・地域との役割分担の明確化・適正化が図られている。

【目指す学校の姿(S評価)の例】

◆学校運営協議会等における協働意識の向上	⑩「学校評価の4点セット」の家庭・地域の取組を、学校・家庭・地域で 目指す子ども像を共有し、同一ベクトルで設定 していること。
◆目標協働達成に向けたチームとしての推進部会等の実働	⑪「学校評価の4点セット」の家庭・地域の取組の 検証・改善が推進部会を中心 に行われていること。
◆学校・家庭・地域の役割分担の明確化・適正化	⑫「学校評価の4点セット」の家庭・地域の取組を進める際に、 学校・家庭・地域の役割が明確に分担 して進められていること。 ⑬「14の業務」について、 学校・家庭・地域の役割分担の見直し が進められている。